

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.2
Q1 室内環境			0.40			3.2
1 音環境		2.7	0.15	2.4	1.00	2.6
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00	
1.2 遮音		2.4	0.40	2.6	0.40	
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		2.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境		3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	
3 外皮性能		3.0	0.38		-	
4 ゾーン別制御性			-		-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		3.1	0.25	4.1	1.00	3.3
3.1 昼光利用		3.6	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率	昼光率(待合):2.246、(病室)2.946%	4.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口		3.0	0.40	3.0	0.40	
3 昼光利用設備		3.0	0.30	4.0	0.30	
3.2 グレア対策		3.0	1.00	4.0	1.00	
2 昼光制御	(病室)カーテン・庇による昼光制御を行っている。	3.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御	(病室)ベッド単位で照明制御ができる。	3.0	0.25	5.0	0.25	
4 空気質環境		4.0	0.25	3.5	1.00	3.9
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	全面的にF☆☆☆☆の材料を使用。	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.5	0.30	2.6	0.38	
1 換気量	1床室(14.18㎡)・・・有効1.584㎡(1/8.9) 4床室(34.68㎡)・・・有効3.168㎡(1/10.9)	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能	各種排気口から6m以上離れて給気口を設置。	4.0	0.50	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮			-		-	
4.3 運用管理		5.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視			-		-	
2 喫煙の制御	全館禁煙である。	5.0	1.00		-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.2
1 機能性		3.0	0.40	4.4	1.00	3.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	(病室)多床室:7.125㎡/床、1床室:14.25㎡/床。		-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		3.0	1.00		-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.30	3.5	0.40	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	4.0	0.50	
1 広さ感・景観	(病室)天井高は2.50m。	3.0	1.00	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			-		-	
3 内装計画		3.0	0.30		-	
1.3 維持管理		3.0	0.50		-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31		-	3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48		-	
1 耐震性		3.0	0.80		-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.33		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:ビニル床シート→20年、タイルカーペット→20年 壁:ビニルクロス貼→20年 天井:化粧石膏ボード→30年、ビニルクロス貼り→30年	5.0	0.09		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	垂鉛鉄板製ダクトの他、厨房用ダクトには耐用性に配慮してガルバリウムダクトを使用。	4.0	0.08		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(VLP)→B 汚水雑排水:耐火二層管(VPで評価)→B 冷媒管:銅管(冷水管-銅管で代用評価)→C 上位3種の内、2種でBを使用し、Eを不使用。	5.0	0.15		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.23		-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		3.8	0.19		-	
				3.0	0.20		-	
	2	給排水・衛生設備	水栓全体の過半以上にエコマーク認定品等を採用。井水利用がある。	4.0	0.20		-	
	3	電気設備	非常用発電設備、地下がないため浸水危険性なし。	5.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備	光・メタルケーブル引込み、地下がないため浸水危険性なし。	4.0	0.20		-		
3	対応性・更新性		3.3	0.29	3.5	1.00	3.3	
3.1	空間のゆとり			4.0	0.31	4.0	0.50	
	1	階高のゆとり	最も低い階高は3.8m。	4.0	0.60	4.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	(共用)壁長さ比率・・・0.123、(病室)壁長さ比率・・・0.288	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2	荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3	設備の更新性			3.0	0.38		-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17		-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
	6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q3	室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1	生物環境の保全と創出			3.0	0.30		-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30		-	3.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	バルコニーによる中間領域の形成、会議室を地域に開放。	4.0	0.50		-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1	エネルギー			-	0.40	-	-	3.5
1	建物の熱負荷抑制		BPI=0.925	3.4	0.30		-	3.4
2	自然エネルギー利用			3.5	0.20		-	3.5
	2.1	自然エネルギーの直接利用	光庭により自然光(採光)を直接利用。	4.0	0.50		-	
	2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
3	設備システムの高効率化		BEI=0.90	4.0	0.30		-	4.0
	集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR換算値=15.4%	4.0			-	
	集合住宅の評価						-	
4	効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
	4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
LR2	資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1	水資源保護			3.8	0.15		-	3.8
	1.1	節水	主要水栓の過半以上に節水型機器を使用。	4.0	0.40		-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.6	0.60		-	
		1	雨水利用システム導入の有無	4.0	0.67		-	
		2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.33		-	
2	非再生性資源の使用量削減			4.2	0.63		-	4.2
	2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07		-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメントB種:基礎スラブ	5.0	0.20		-	
	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	床:塩ビタイル、天井:岩綿吸音板、外構:舗装材	5.0	0.20		-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05		-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+LGS+仕上材により分別容易。OAフロアの採用。	5.0	0.24		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.22		-	3.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	PRTR対象の有害物質を含まない床シート接着材を1種類採用。	4.0	0.32		-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68		-	
		1	消火剤	-	-		-	
		2	発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50		-	
		3	冷媒	3.0	0.50		-	
LR3	敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮		LCCO2低減率=8%	3.3	0.33		-	3.3
2	地域環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
	2.1	大気汚染防止		3.0	0.25		-	
	2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50		-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25		-	
		1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25		-	
		2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25		-	
	3	交通負荷抑制	利便性に配慮した駐輪場や駐車スペースを適切に確保。敷地の車両出入口を分離し、周辺道路への渋滞緩和に寄与。	5.0	0.25		-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
		1	騒音	3.0	1.00		-	
		2	振動	-	-		-	
		3	悪臭	-	-		-	
	3.2	風害・砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40		-	
		1	風害の抑制	3.0	0.70		-	
		2	砂塵の抑制		-		-	
		3	日照阻害の抑制	3.0	0.30		-	
	3.3	光害の抑制		4.4	0.20		-	
		1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0	0.70		-	
		2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30		-	